

都市再生整備計画 事後評価シート
まちなか地区

平成30年3月

長崎県長崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県	市町村名	長崎市	地区名	まちなか地区(地方都市リノベーション事業)			面積	270ha
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	2,799	国費率	0.5		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名							
		基幹事業	【道路】市道浜町伊良林1号線						
		基幹事業	【道路】市道鍛冶屋町古川町1号線						
		基幹事業	【道路】市道古町麴屋町1号線						
		基幹事業	【公園】中島川公園						
		基幹事業	【地域生活基盤施設】情報板						
		基幹事業	【高質空間形成施設】緑化施設等(市道浜町古川町1号線、市道魚の町諏訪町1号線、市道大黒町恵美須町1号線、市道五島町恵美須町1号線、路地整備事業、市道出来大工町江戸町線、市道江戸町魚の町1号線)						
		基幹事業	【地方都市リノベーション推進施設】新市立病院						
	提案事業	なし							
	当初計画から削除した事業	事業名							
		基幹事業	【道路】市道新大工町片瀨3号線			再開発事業等の周辺のまちづくりの動きを踏まえた検討が必要なことから、事業中止		回遊性の向上に寄与する周辺道路の整備や二輪車等駐車場整備等を他事業で実施したことにより影響なし	
		基幹事業	【道路】市道勝山町麴屋町1号線			袋橋の通行止めによる周辺の歩行環境整備を優先的に行うため、事業期間の見直しを行い、事業中止		交通規制の見直しに伴う歩行者の安全性の確保や他路線の整備を実施したことにより影響なし	
		基幹事業	【道路】市道勝山町古町1号線			袋橋の通行止めによる周辺の歩行環境整備を優先的に行うため、事業期間の見直しを行い、事業中止		交通規制の見直しに伴う歩行者の安全性の確保や他路線の整備を実施したことにより影響なし	
		基幹事業	【道路】大浦町下町1号線			整備予定箇所の土地所有者の意向により、移転時期等の調整が困難なことから、事業中止		周辺市有地に敷地内通路として歩行者動線を確保したことにより影響なし	
		基幹事業	【道路】市道恵美須2号線			他事業で実施したため		影響なし	
		基幹事業	【地域生活基盤施設】広場			他事業によって代替施設の整備を実施したことや再開発事業等の周辺のまちづくりの動きを踏まえた検討等が必要なことから、事業中止		代替となる周辺の施設等により機能を確保したことにより影響なし	
		基幹事業	【高次都市施設(仮)】中島川・寺町地区交流センター			民間事業者との連携により機能を確保したことから、事業中止		周辺施設による機能を確保したことにより影響なし	
		基幹事業	【高次都市施設(仮)】浜町・銅座地区交流センター			再開発事業の動きを踏まえながら検討する必要があることから、事業中止		事業(魚の町地区)の追加を行ったことにより影響なし	
		基幹事業	【既存建造物活用事業(仮)】館内・新地地区交流センター			他事業により代替となる機能を確保したことから、事業中止		他事業で代替となる機能を確保したことにより影響なし	
	提案事業	なし			-		-		
新たに追加した事業	基幹事業	【優良建築物等整備事業】魚の町地区			高度な行政機能の構築や、それにあわせて、市民が親しみやすく、交流が促進されるような機能の追加等による人の動きの活性化やまちなかの賑わい創出を図るため、事業追加		(仮)浜町・銅座地区交流センターの削除を行ったことにより影響なし		
	提案事業	なし			-		-		
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			
変更	なし								

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	歩行者交通量(まちなか地区)	人	44,141	H23	39,900	H29		44,639	○	あり なし	町家の助成などによる歴史的なまちなみの形成が進んだことや、商業活性化事業等により地区の魅力が高まったことに加え、道路、公園の整備により歩行者の安全性、快適性が向上したことも歩行者交通量の増加に寄与したと思われる。	-
	指標2	グラバー園・出島・歴史文化博物館・県立美術館の入場者数	人	2,141,022	H23	2,143,000	H29		2,498,881	○	あり なし	中島川公園整備などでまちなかの魅力づくりが進んできたことにより、来街者が増加したことに加え、道路や誘導案内板などを整備したことで、施設間の回遊性が向上し、入場者数の増加に寄与した。	-
	指標3	定住人口(まちなか地区)	人	31,427	H23	28,600	H29		33,520	○	あり なし	道路や公園の整備、新市立病院の建設による生活環境の向上や、まちなかの魅力づくりが進んできたことよって、地区内の人口の増加に寄与した。	-
	指標4	地域医療中核施設(新市立病院)の外来患者数	人	124,864	H23	200,000	H29		139,534	△	あり なし ●	高次医療機能の課題は改善されたが、地域医療中核施設である新市立病院が、周辺の医療機関との役割分担・連携強化を図り、患者の逆紹介を推進したことで、1人当たりの平均来院数が減ったことが要因と考えられる。	-
	指標5										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	地域医療中核施設(新市立病院)の救急搬送人数	人/年	2,003	H23				3,889			高次医療機能を高める要素として、救急受入態勢の強化を図っており、着実に実績をあげている。	
	その他の数値指標2	地域医療中核施設(新市立病院)の手術件数	人/年	2,033	H23				3,417			高次医療機能を高める要素として、ハイブリッドオペ室の整備などを進めており、それらを含めた手術件数においても着実に実績をあげている。	
	その他の数値指標3	地域医療中核施設(新市立病院)の逆紹介率	%	41.9	H23				95.3			地域医療中核施設として、周辺の医療機関との役割分担・連携強化を図る一環として、患者を紹介する逆紹介率向上を推進している。	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新市庁舎建設に関して、市民ワークショップの開催等により、様々な意見を基本設計に反映することができた。また、広報紙やテレビ、イベント等によって新庁舎建設に対する理解や期待感が高まった。 ・みんなにやさしいトイレ会議などの市民団体と連携を図りながら、誰もが安心して快適に利用できるような公共トイレの整備が実現できた。 ・地域と協議を行いながら回遊路整備を実施することで、地域のまちづくりの取り組みへの参加が促された。 ・町家風の家屋への自主的な改修が増えている。 ・新規出店の店舗が増加している。 ・市民団体等によるまちづくり活動が増えている。 ・地区を対象に実施したアンケートによって、事業の効果が確認できた。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況									今後の対応方針等
	モニタリング	なし		<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 									-
	住民参加プロセス	岩原川周辺環境整備や新庁舎建設計画などにおいて、ワークショップ等を開催している		<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 									今後も市民、企業、大学などの多様な組織と連携を図りながら事業を進めていき、それぞれの役割を担ったまちづくりの取り組みへの参加を促進する
持続的なまちづくり体制の構築	みんなにやさしいトイレ会議実行委員会など市民団体が行うまちづくり活動を継続させるため、長崎市が進めている「まちぶらプロジェクト」として認定し、活動を支援している		<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 									地域の歳時や、民間施設のトイレ開放に係る調整など、まちづくりに関する取り組みを行っている市民と連携を行う。また、まちなかの魅力を高める活動などに地域が主体的に取り組めるよう長崎市も支援する。	

様式2-2 地区の概要

まちなか地区(長崎県長崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: まちなか地区の都市拠点機能を高めるとともに、交流の拡大のため、まちなかの賑わい創出する。 目標1: 都市拠点機能として、行政、福祉、医療機能を高める 目標2: 安全・安心・便利なまちなかを創る 目標3: 地域の魅力を向上させ、賑わいと交流が生まれるまちなかを創る		歩行者交通量(まちなか地区)	単位:人	44,141	H23	39,900	H29	44,639	H29
		グラバー園・出島・歴史文化博物館・県立美術館の入場者数	単位:人	2,141,022	H23	2,143,000	H29	2,498,881	H29
		定住人口(まちなか地区)	単位:人	31,427	H23	28,600	H29	33,520	H29
		地域医療中核施設の外来患者数	単位:人	124,864	H23	200,000	H29	139,534	H29
			単位:		H		H		H
		<p>まちづくりの目標</p> <p>目標を定量化する指標</p> <p>従前値</p> <p>目標値</p> <p>評価値</p>							
<p>まちの課題の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市立病院の建設に伴い、高次医療機能の充足が図られたが、子育て機能が充実できていない ・道路や公園などの整備により地区内の安全性・快適性が向上し、まちなかの定住人口が減少傾向にあったものが改善され、平成27年度からは増加に転じている。また、町家の助成などによる地区の魅力が高まったことで交流人口も拡大し、新たな店舗の出店が増すなど商業機能の活力の向上に一定の効果を得られているが、来街者が長く滞るための環境が整っていない ・ワークショップ等による地域と協議を行いながら整備を進めたことで、歳時などのまちづくりに係る取り組みが活発化することにより、地域のコミュニティ機能が向上しているものの、地域による主体的、持続的な活動とその拠点が不足している ・地区の特徴に合わせた道路などの整備やまちなみの整備に取り組んだことで景観が向上したが、夜の景観形成が十分に図られていない ・出島や出島表門橋と一体となった中島川公園の整備や町屋の助成による修景など、歴史的な魅力の顕在化が図られたことで、歩行者交通量や観光施設入場者数が増加したが、魅力的な資源が夜に十分活かされていない ・これまでの取り組みの成果によるまちの変化や、地区周辺における拠点機能整備による環境の変化に応じた回遊路などの整備が必要 		<p>今後のまちづくりの方策(改善策を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て機能の充実のための拠点となる施設の設置に向けた検討を行う ・定住人口の維持や交流人口の拡大に向け、安全性・快適性向上を図る環境整備や町家の助成などによる地区の魅力づくりに継続して取り組むとともに、来街者の滞在時間を拡大するため、夜景景観の整備や魅力の情報発信に取り組む ・まちづくり活動への住民参加を促すため、ワークショップを行うとともに、地域が主体となった活動を支援できる仕組みづくりやその活動の拠点となる施設の整備を図る ・景観の形成を図るため、地区の特徴に合わせた道路の整備やまちなみの整備を継続して行うとともに、夜景景観の整備に取り組むなど、夜の景観形成を推進する ・魅力的な資源の活用を図るため、町家の助成による修景や地域活動への支援を行うとともに、洋館やお寺などの歴史的な資源を活かした夜の魅力づくりに取り組む ・周辺施設とのネットワークに配慮した交通環境等を確保する 							